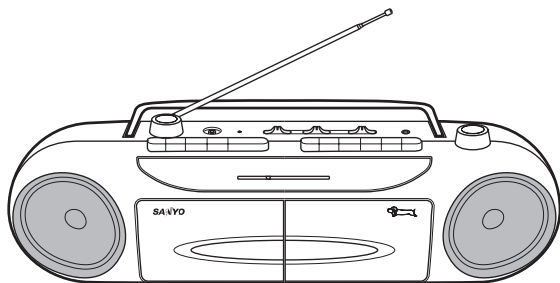
取扱説明書

ラジオカセットレコーダー
品番 U4-W33

保証書付 裏表紙にあります

このたびは、お買い上げいただき、ありがとうございました。正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をよくお読みください。
お読みになったあとは、いつでも取り出せるところに大切に保管してください。
なお、この取扱説明書は保証書付になっています。保証書は「お買い上げ日」、「販売店」などの記入を必ず確かめ、販売店よりお受け取りください。

取扱説明書には色記号の表示を省略しています。
包装箱に表示している品番の(　)内の記号が色記号です。

もくじ

本機を使用できるのは日本国内のみで、国外では使用できません。
This unit is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

安全上のご注意

安全のため必ずお守りください

■絵表示について

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、本文をお読みください。

警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

■絵表示の例

△ の記号は「注意(警告を含む)をうながす事項」を示します。
⃠ の記号は「してはいけない行為(禁止事項)」を示します。
● の記号は「しなければならない行為」を示します。

お願い

- 「安全上のご注意」の文中での「電源を切る」とは**ファンクション**スイッチを「電源 切 (「マイク録音」または「テープ」)」にすることです。
- 「安全上のご注意」のイラストと本機とでは若干形状等が異なることがありますがご了承ください。

⚠ 警告

万一、異常や故障が発生したときはすぐに使用をやめてください

次のようなときは、そのまま使用すると、火災、感電の原因となります。すぐに本体の**ファンクション**スイッチで電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

- **煙が出ている、変なにおいや音がする(異常状態)**
  煙が出なくなるのを確認し、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。お客さまによる修理は危険ですから絶対におやめください。
- **本機の内部に水などが入った**
- **異物が本機の内部に入った**
- **音が出ないなど(故障状態)**
- **倒したり落としたりして、キャビネットを破損した**

電源プラグを抜く

⚠ 警告

電源について

■電源コード接続時の注意

次のことをお守りください。誤った使い方をすると発熱などにより、火災の原因となります。

- 電源プラグはコンセントへ確実に接続する。
- 電源コードは束ねたまま使用しない。
- たこ足配線はしない。

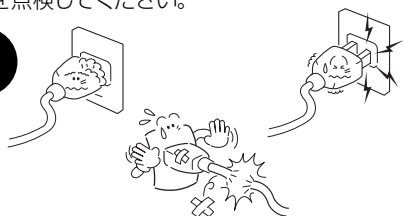
■電源コードを傷つけない

無理な使いかたをするとコードが破損しますので、次のようなことはしないでください。

- 電源コードの上に重いものを乗せる。
- 途中でつぎ足したりして加工する。
- 無理に折り曲げる。
- 傷をつける。
- ねじったり、引っ張ったりする。
- 熱器具に近づける。

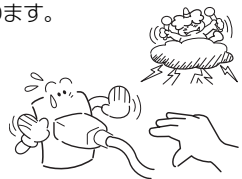
電源コードが傷んだときは、お買い上げの販売店に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると、火災、感電の原因となります。

■定期的に点検を

設置時から1年に1度は電源コンセントと電源プラグの間にホコリが付着していないか、電源コードに傷みがないか、電源プラグが抜けかけていないかなどを点検してください。

■電源電圧100V以外や国外では使用しない

表示された電源電圧（AC 100V）以外の電圧で使用しないでください。火災、感電の原因となります。
また、本機をAC電源で使用できるのは日本国内のみで、外国では電源電圧が異なりますので使用できません。
This unit is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

■雷が鳴り出したら

電源プラグやアンテナには絶対に触れないでください。感電の原因となります。

屋外で使用中の場合は、ロッドアンテナをたたんで安全な場所に避難してください。落雷の原因となります。

使用方法・設置

■分解しない

本機を分解、改造しないでください。火災、感電の原因となります。内部の点検、調節、修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

■本機の上に水などの入った容器を置かない

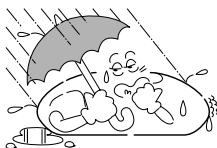
内部に水などが入った場合、火災、感電の原因となります。

はじめに

⚠ 警告

■ぬらさない

- 本機をぬらさないようにご注意ください。火災、感電の原因となります。
- 風呂場、水辺、雨天の中などでは使用しないでください。

水ぬれ禁止

■異物を入れない

通風孔やカセット挿入口などから、金属類や燃えやすいものなど、異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。（特に小さなお子さまのおられるご家庭はご注意ください。）火災、感電の原因となります。

禁　止

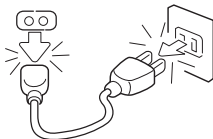
■乾電池で使用する場合

電源コードはコンセントおよび本機のAC電源端子（AC INPUT～）の両方とも抜いてください。コンセント側が接続されていると火災、感電の原因となります。

電源プラグ
を抜く

■運転中、ヘッドホンは使用しない

自動車・オートバイなどの運転中や自転車に乗りながらヘッドホンやイヤホンを使用しないでください。交通事故の原因となります。

禁　止

■通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。本機の後部や底部などに通風孔があり、次のような使い方はしないでください。

- 本機をあお向けや横倒し、逆さまにする。
- 押し入れ、本箱など風通しの悪い狭い所に置く。
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上に置く。

禁　止

■壁にぴったりつけない

本機の設置は、壁から10 cm以上の間隔をあけてください。また、他の機器との間は少し離してください。

ラックなどに入れるときは、本機の天面および背面からそれぞれ10 cm以上のすきまをあけてください。すきまがないと、内部に熱がこもり火災の原因となります。

禁　止

⚠ 注意

■電源プラグを抜くときの注意

- ぬれた手で電源プラグをさわらないでください。感電の原因となることがあります。
- 電源プラグを抜くときは、プラグを持って抜いてください。電源コードを引っぱるとコードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。

■本機の上に重いものを置かない

バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。また、本機の上に乗らないでください。（特に小さなお子さまのおられるご家庭はご注意ください。）

■設置場所に注意

- じゅうたんやたたみ、塩化ビニール製の床材や家具などの上に設置するときは、下に板などを敷いてください。直接置くと床面が変色することがあります。

- 湿気、ほこりの多い場所や、油煙、湯気が当たる場所に置かないでください。火災、感電の原因となることがあります。
- 窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など温度が高くなる場所に放置しないでください。火災、故障の原因となることがあります。

■本機を不安定な場所に置かない

平らで水平な場所に設置してください。不安定な場所に置きますと倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

■カセット挿入口に手を入れない

けがの原因となることがあります。（特に小さなお子さまのおられるご家庭はご注意ください。）

■持ち運びの注意

- 電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、外部接続をすべて外してから持ち運びしてください。コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。

- ロッドアンテナをたたんでください。伸ばしたまま持ち運びするとロッドアンテナがひっかかったり、当たったりしてけがの原因となることがあります。

■スピーカーの前に割れやすいものなどを置かない

スピーカーからの空気圧により倒れたり、落下して、故障やけがの原因となることがあります。

■ヘッドホンやイヤホンの音量に注意

音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

■音量に注意

- 電源を切るときは音量を小さくしておいてください。電源を入れたとき、突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。

- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

⚠ 注意

■電磁波の発生する機器に近づけない

携帯電話や充電器、電磁波の発生する電気製品に近づけない。電磁波のためにノイズの影響が生じることがあります。

■クレジットカードなどをスピーカーに近づけない

本機のスピーカーには強力な磁石を使用していますので、時計、クレジットカード、磁気定期券、カセットテープ、ビデオテープなどは、スピーカーのそばに置かないでください。データが壊れて使用できなくなることがあります。

■長期間（1ヶ月以上）使用しない場合やお手入れの際の注意

安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。

■乾電池使用上の注意

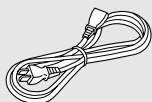
乾電池の使い方を誤ると、乾電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。次のことをお守りください。

- 指定以外の乾電池は使用しない。
- 極性（⊕と⊖）に注意し、表示通りに入れる。

- 種類の異なるものや、新旧の乾電池を混ぜて使わない。
- 乾電池を充電、加熱、分解したり、火や水の中に投入しない。ショートさせない。

- 長期間（1ヵ月以上）使用しないときは、乾電池を取り出しておく。

もし、液もれが起こったときは、電池ケースについた液をよくふき取ってから新しい乾電池を入れてください。万一、もれた液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

付属品をお確かめください

電源コード（約1.8m）……1
（本体の電池ぶたを開けた所に入っています。）

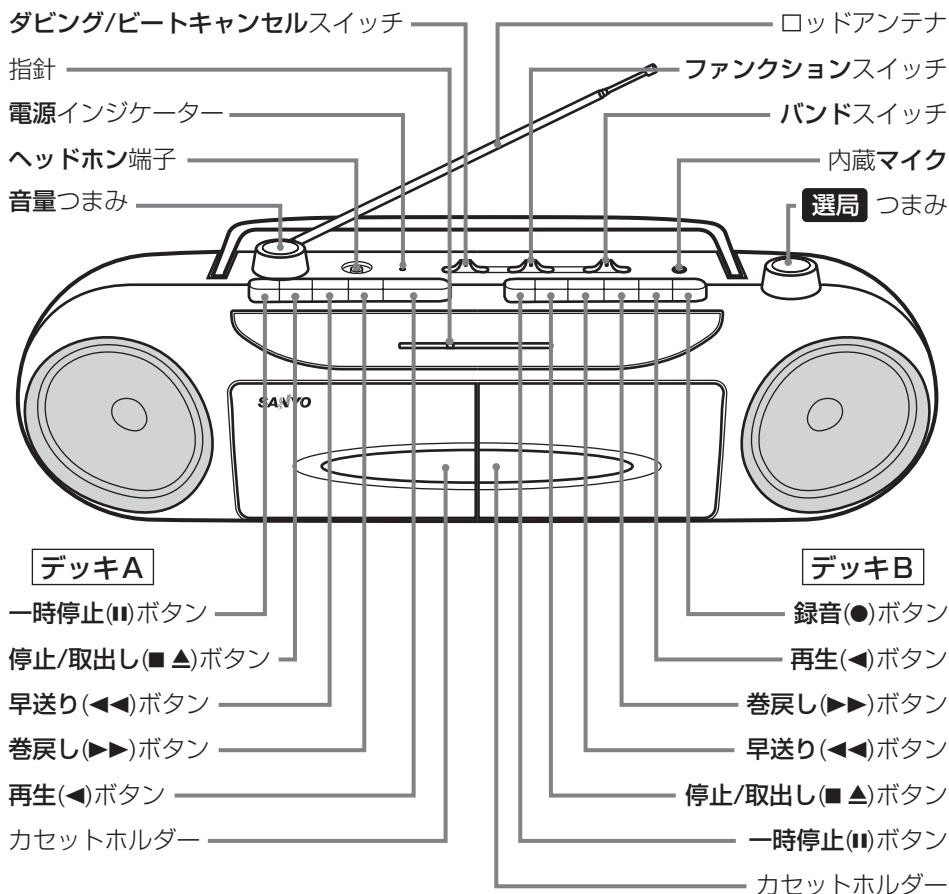
本書（保証書付）……1

ご注意

本製品に付属の電源コードは本製品以外の機器に使用しないでください。

著作権について

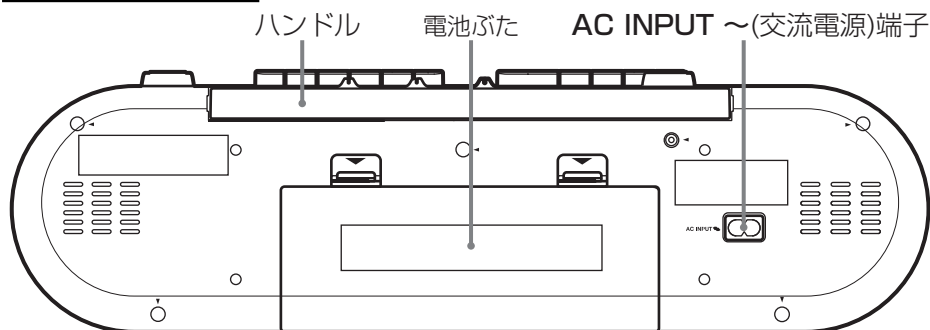
- 放送やMD、DVD、CD、レコード、その他の録音物（ミュージックテープ、カラオケテープなど）の音楽作品は、音楽の歌詞、楽曲などと同じく、著作権法により保護されています。
- 従ってそれらから録音したテープを売ったり、配ったり、譲ったり、貸したりする場合、及び営利（店のBGMなど）のために使用する場合には、著作権法上、権利者の許諾が必要です。また、無断で複製、放送、上映、有線放送、公開演奏、レンタル（有償、無償を問わず）することは、法律により禁止されています。
- 使用条件は、場合によって異なりますので、詳しい内容や申請、その他手続きについては「日本音楽著作権協会」（JASRAC）におたずねください。

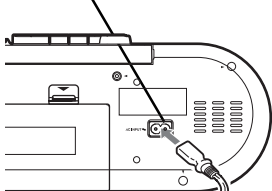
JASRAC本部:TEL.　03-3481-2121
FAX.　03-3481-2150
URL　http://www.jasrac.or.jp/

各部のなまえ

正　面

ダビング/ビートキャンセルスイッチ
指針
電源インジケーター
ヘッドホン端子
音量つまみ
ロッドアンテナ
ファンクションスイッチ
バンドスイッチ
内蔵マイク
選局 つまみ
SANYO
デッキA
一時停止(II)ボタン
停止/取出し(■ ▲)ボタン
早送り(◀◀)ボタン
巻戻し(▶▶)ボタン
再生(◀)ボタン
カセットホルダー
デッキB
録音(●)ボタン
再生(◀)ボタン
巻戻し(▶▶)ボタン
早送り(◀◀)ボタン
停止/取出し(■ ▲)ボタン
一時停止(II)ボタン
カセットホルダー

背　面

ハンドル
電池ぶた
AC INPUT ～(交流電源)端子
AC INPUT

電源について

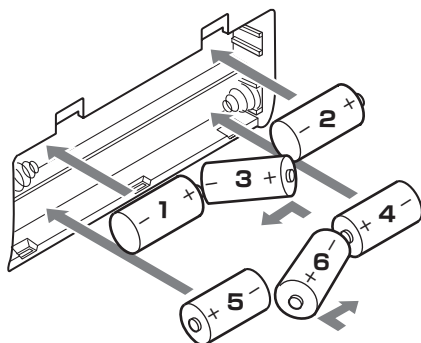
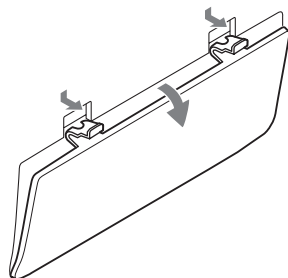
AC電源でご使用の場合

ご注意

- 電源コードを抜き差しするときは、**ファンクション**スイッチを「電源 切 (「マイク録音」または「テープ」)」の位置にしてからおこなってください。先に電源を切らないと、故障の原因となります。

ちょっとこれを!

- 近くに置いたテレビに色ズレを生じたり、本機のラジオにテレビからの雑音が入る場合は、本機をテレビから離してご使用ください。

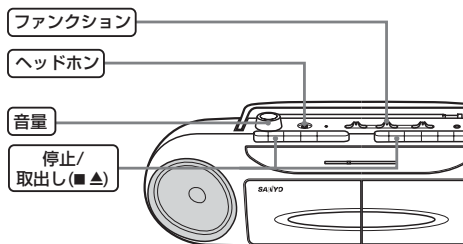
乾電池でご使用の場合

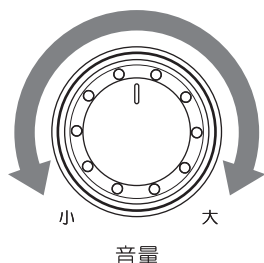
電池ぶたを開け、別売の**単1形乾電池**6本を図のように入れ、ふたを閉めます。

- 極性(⊕と⊖)を間違えないように図に示す番号順に入れます。
- 電源コードが**AC INPUT～**端子に接続されていると、乾電池では動作しません。
- 長期間(1カ月以上)使用しない場合やAC電源で使用する場合は、乾電池を取り出しておいてください。

ちょっとこれを!

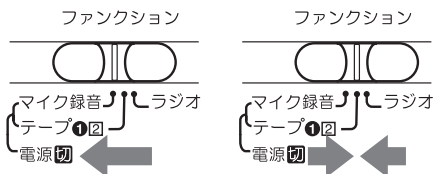
乾電池の交換時期は……

- 乾電池が消耗してくると次のような現象を生じます。
  - 音が小さい、ひずむ。
  - テープ速度が遅くなる。
  - ラジオは聞けるがテープが正常に動作しない。
- 大切な録音をするときは、あらかじめ新しい乾電池に交換するかAC電源の使用をおすすめします。
- **電源**インジケーターは乾電池の残量を表示するものではありません。

共通の操作

音量を調節する

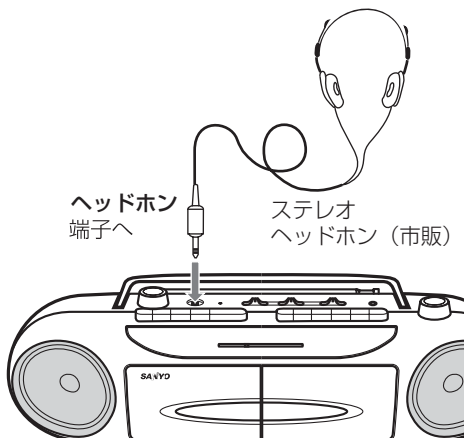
音量つまみを回す

聞き終えるときは

ラジオのとき:

ファンクションスイッチを「電源 切（「マイク録音」または「テープ」）」にする

テープまたはマイク録音のとき:

動作中の場合は停止/取出し(■▲)ボタンを押す

ヘッドホンで聞く

ミニプラグ付のステレオヘッドホン(市販)またはイヤホンを上面のヘッドホン端子に接続する

- ヘッドホン(またはイヤホン)をつなぐと、スピーカーから音は出ません。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。音量は時間と場所に応じて適度に調節してください。特に夜間の音楽鑑賞には気をくばりましょう。窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。

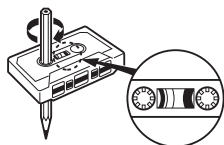
準備

カセットテープを再生・録音する前に

お使いになるカセットテープについて

- ノーマルテープ(TYPE Ⅰ)をご使用ください。ハイポジション(TYPE Ⅱ)やメタル(TYPE Ⅳ)テープは再生できますがその特性を活かすことはできません。また、録音すると正しく録音・消去できませんのでご注意ください。
- ツメを折ったカセットテープでは、録音はできません。
- 100分以上の長時間テープは大変薄く、伸びやすいため、回転部に巻き込んだり、テープ走行が不安定になることがありますのでご使用にならないでください。
- エンドレステープは使用できません。

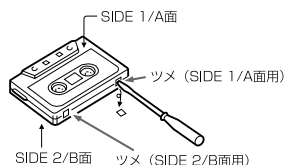
テープにたるみがあるときは…

たるみのあるテープは傷ついたり、切れる原因になります。また、巻き込んだりして故障の原因になります。テープがたるんでいるときは、鉛筆などでたるみをとってから使ってください。

- テープを引き出したり、テープ面にふれないでください。
- リーダーテープ部を巻き取るときは、矢印方向に回してください。逆に回すと巻き込みの原因になります。

大切な録音や再生は事前に確認を

大切な録音や再生の場合は、正常に録音や再生ができることを確認してください。

録音したテープを誤って消さないために

カセットテープの後ろ側にあるツメをドライバーなどで折れば誤消去の防止になります。

誤ってツメを折ったり、再び録音したいときは、セロハンテープなどで穴をふさぐと録音できるテープに復元します。

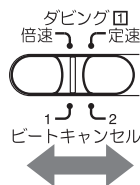
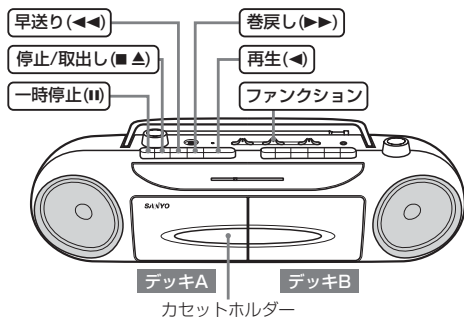
自動録音レベル調整について

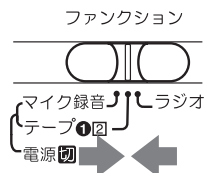
本機には**ALC**(Automatic Level Control：自動録音レベル調整のこと)回路が内蔵されていますので、自動的に適正なレベルで録音されます。
音量つまみを調整しても録音には影響しません。

カセットテープの保管について

ご使用後は所定のケースに入れ、高温多湿、磁気、直射日光、チリ、ホコリの多い場所やカビの発生しやすい場所はさけて保管してください。

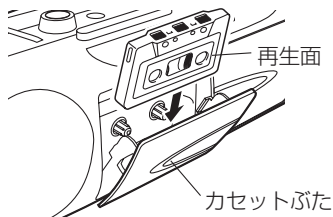
録音中にビート音がでるときは

ラジオを録音中、ビート音(「ピー」という音)がでることがあります。
その場合には上面の**ビートキャンセル**スイッチをビート音が小さくなる位置(1または2)に切り換えてください。

カセットテープを聞く

- **デッキA**は再生専用、**デッキB**は録音･再生ができます。
- ここでは**デッキA**側で説明します。

1 **ファンクションスイッチを「テープ」にする**

2 **停止/取出し(■ ▲)ボタンを押す**

カセットホルダーが開きます。

3 **カセットテープを入れ、カセットホルダーを閉める**

カセットホルダーはカチッと音がするまで確実に閉めてください。

カセットテープの入れかた

再生(または録音)する面を手前に向け、テープの露出している方を上側に、巻き取られている方を右にして入れます。

- テープのたるみがないことを確認してからカセットテープを入れてください。
- 録音するときは、頭切れをなくすため、あらかじめリーダーテープ部を巻き取っておいてください。P10

4 **再生(◀)ボタンを押す**

再生が始まります。

再生を途中で止めるには

停止/取出し(■ ▲)ボタンを押す

もう一度押すとカセットホルダーが開きます。

ご注意

- 再生中に本機を動かしたりしないでください。テープを傷めたり、故障の原因となります。
- カセットホルダーが完全に開いてから、カセットテープを取り出してください。

一時停止する

再生中に一時停止(II)ボタンを押す

もう一度押すと再び再生が始まります。

早送り、巻戻し

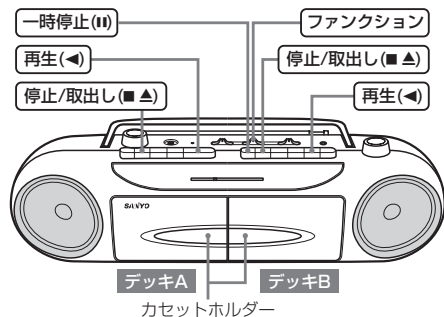
停止時に早送り(◀◀)または巻戻し(▶▶)ボタンを押す

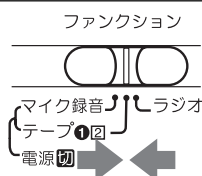
お望みのところまで巻き取った後、**停止/取出し**(■ ▲)ボタンを押します。

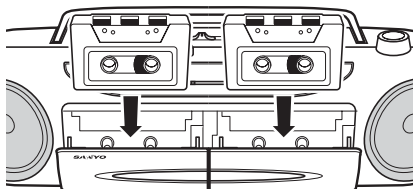
- 早送り･巻戻し中はテープが全部巻き取られても、ボタンは自動的に復帰しません。**停止/取出し**(■ ▲)ボタンを押してください。

ちょっとこれを！

- 再生中や録音中に**早送り**(◀◀)または**巻戻し**(▶▶)ボタンを押した場合、すぐに早送り/巻き戻し機能に切り換わります。
- 再生･録音中にテープが全部巻き取られると、自動的にボタンが復帰して停止します。
- 一方のデッキを再生中に、他方のデッキで早送り･巻戻しをしないでください。音質が低下することがあります。

カセットテープを連続再生する (デッキA ⟹ デッキB)

● 2本のカセットテープの片面を続けて再生することができます。

1 ファンクションスイッチを「テープ」にする

2 停止/取出し(■ ▲)ボタンを押してカセットホルダーを開け、カセットテープを入れる P11

デッキAに最初に聞くカセットテープを、**デッキB**に次に聞くカセットテープを入れます。

3 カセットホルダーを閉める

カセットホルダーはカチッと音がするまで確実に閉めてください。

4 デッキAの再生(◀)ボタンを押す

デッキAの再生が始まります。

5 デッキBの一時停止(❚❚)ボタンを押す

6 デッキBの再生(◀)ボタンを押す

デッキBは待機状態になります。

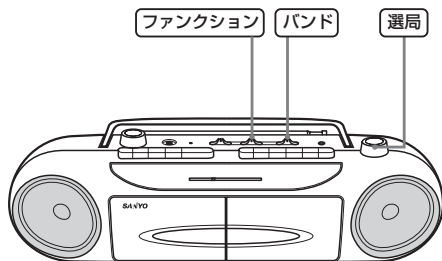
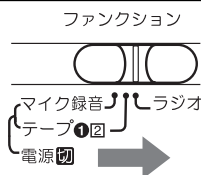
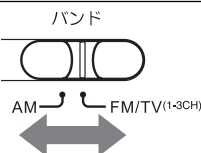
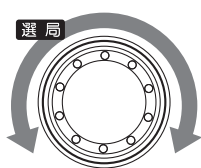
再生を途中で止めるには

両方(デッキAとデッキB)の停止/取出し(■ ▲)ボタンを押す

もう一度押すとカセットホルダーが開きます。

ちょっとこれを!

● **デッキA**の再生が終わると、**デッキA**の**再生**(◀)ボタンと**デッキB**の**一時停止**(❚❚)ボタンが自動的に復帰し、今度は**デッキB**の再生が始まります。
デッキBの再生が終わると、自動的に停止します。
● パネル上面の表示番号 ❶ ► ❷ ► ❸ ► ❹ が連続再生の基本操作手順です。

ラジオを聞く

1 ファンクションスイッチを「ラジオ」にする

2 バンドスイッチで希望のバンドをぶ

3 選 局 つまみで希望の放送局に合わせる

ちょっとこれを！

- テレビに色ズレが生じたり、本機にテレビからの雑音が入る場合は、本機をテレビから離してご使用ください。
- 受信状態は本機の設置場所によって変わります。
- AMステレオ放送には対応していません。

テレビの音声を聞く

地上アナログテレビ放送は2011年7月までに終了することが、国の法令として決定されています。地上アナログ放送終了後は、テレビの音声を聞くことはできません。

本機のFM/TV(1-3CH)バンドでテレビの1～3チャンネルの音声を聞くことができます。

選 局 つまみで指針を 1 – 2 – 3 に合わせてください。

ちょっとこれを！

- 本機のテレビ受信回路はFM受信回路と兼用しています。このため、地域によってはテレビの2または3チャンネルの音声受信時にFM放送が混信することがあります。
- 室内アンテナを使用しているテレビの近くで、本機でテレビ音声を聞くと、テレビの画像が乱れることがあります。このようなときは、本機をテレビから離してください。
- テレビ音声は、ステレオ･音声多重にはなりません。

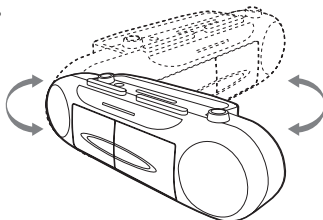
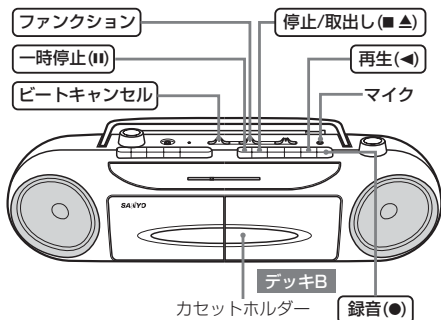
よりよい受信をするために

FM放送やTV音声のとき

ロッドアンテナを伸ばし、最も良く聞こえる方向に向けてください。

AM放送のとき

本体の向きを変えて、もっともよく聞こえるようにします。

聞きかた

カセットテープに録音する

● デッキBを使います

1 停止/取出し(■ ▲)ボタンを押してカセットホルダーを開け、録音用カセットテープを入れる P11

- テープの途中から録音するときは、録音を開始する位置までテープを巻き取っておいてください。

2 カセットホルダーを閉める

カセットホルダーはカチッと音がするまで確実に閉めてください。

3 ファンクションスイッチで録音するファンクションを選ぶ

ラジオ・内蔵マイクの2つから録音するソースを選択します。

ラジオを録音するとき

ファンクションスイッチを「ラジオ」に切り換えて、放送を受信する。P13

内蔵マイクを使って録音するとき

ファンクションスイッチを「マイク録音」に切り換える。

ご注意

ファンクションスイッチを「テープ」にすると無音で録音されます。

4 一時停止(II)ボタンを押す

5 録音(●)ボタンを押す

再生(◀)ボタンも同時にさがり、録音待機状態になります。

6 再度、一時停止(II)ボタンを押す

録音が始まります。

内蔵マイクから録音するときは、マイクと口元の距離を約30cm離してください。

録音を止めるには

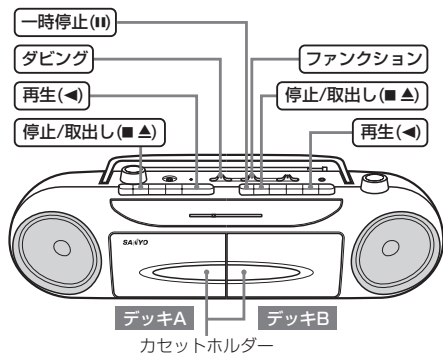
停止/取出し(■ ▲)ボタンを押す

- 録音中にテープが終端までくるとカセットデッキは自動停止します。
- **自動録音レベル調整について**
  本機には**ALC**(Automatic Level Control：自動録音レベル調整のこと)回路が内蔵されていますので、自動的に適正なレベルで録音されます。
  音量つまみを調整しても録音には影響しません。

録音を一時的に止める

録音中に一時停止(II)ボタンを押す

もう一度押すと再び録音が始まります。

カセットテープをダビングする（デッキA ⇨ デッキB）つづく

● **デッキA**の再生と**デッキB**の録音が同時にスタートします（シンクロダビング）。また、**定速・倍速**のダビング速度が選択できます。

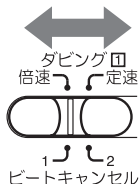
準　備

デッキAに再生するカセットテープを、デッキBに録音するカセットテープを入れる P11

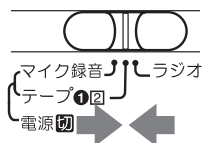
● 再生･録音する面をそれぞれ手前に向け、テープの露出している方を上側にして入れます。
● それぞれ希望のところを頭出ししておきます。
● テープの始めからダビングするときは、それぞれのテープを巻戻しておきます。

1 **ダビングスイッチでダビング速度を選ぶ**

ダビング ①
倍速　定速
1　2
ビートキャンセル

定速：
デッキAの再生音を聞きながらダビングしたいとき
倍速：
短時間でダビングしたいとき
（ダビング速度は定速時の約1/2）

ご注意

ダビング中にダビング速度を切り換えないでください。

2 **ファンクションスイッチを「テープ」にする**

3 **デッキBの一時停止（II）ボタンを押す**

4 **デッキBの録音（●）ボタンを押す**

再生（◀）ボタンも同時にさがり、録音待機状態になります。

5 **デッキAの再生（◀）ボタンを押す**

デッキBの**一時停止**（II）ボタンが復帰し、ダビングが始まります。

ダビングを途中で止めるには

両方（デッキAとデッキB）の停止/取出し（■ ▲）ボタンを押す

もう一度押すとカセットホルダーが開きます。

ちょっとこれを！

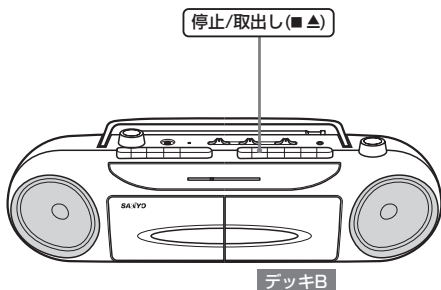
● テープの始めから終わりまでダビングするときは、**デッキA**が自動停止するまで待ちます。

ダビングを一時的に止める

ダビング中にデッキAまたはデッキBの一時停止（II）ボタンを押す

● **一時停止**（II）ボタンを押した側のデッキのみ一時停止状態になります。

もう一度押すと再びダビングが始まります。

カセットテープをダビングする (デッキA ⇒ デッキB)

ダビング時、テープの長さが異なる場合は次のような動作になります

デッキAがデッキBより長い：

デッキBが停止すると、ダビングは解除され、デッキAは再生を続けます。（倍速の場合は定速になります。）

デッキBがデッキAより長い：

デッキAが停止すると、ダビングは解除され、デッキBはそのまま無音状態での録音を続けます。デッキBの停止/取出し（■ ▲）ボタンを押してください。

● 同じ銘柄の同じ録音時間のテープでも長さに多少差があることがあります。

ちょっとこれを！

● デッキBの録音用テープは、デッキAの再生側テープと同じ長さ、またはそれ以上の長さのものをご用意ください。
● 倍速ダビングの場合、モニター音は正常に聞きとれませんので、音量をしぼっておいてください。
● テレビなどの近くでダビング（特に倍速ダビング）しますと、テレビなどの影響で、異常音がまじって録音されることがあります。このような場合は、テレビなどの電源を切るか、本機をテレビなどから離してください。
● パネル上面の表示番号 1 ► 2 ► 3 ► 4 ► 5 がシンクロダビングの基本操作手順です。

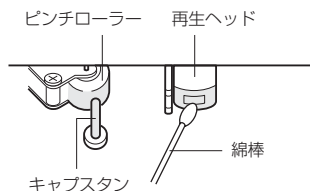
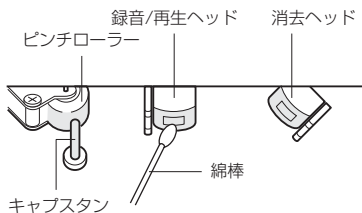
お手入れ

テープヘッド部の清掃

カセットテープを再生または録音すると・・・

- 音が悪い
- きれいに録音できない
- 前の音が残っている
- テープが巻きつく

などの症状がでた場合、その多くはヘッドやピンチローラーおよびキャプスタンの汚れが原因となっていますので、市販のクリーニングキット(またはクリーニングテープ)をお買い求めのうえ、ヘッド部分を清掃してください。清掃はできるだけ早い目(約10時間程度使用ごと)におこなってください。

デッキA

デッキB

停止/取出し(■▲)ボタンを押してカセットホルダーを開け、ヘッド、キャプスタン、ピンチローラをふいてください。

本体のお手入れ

キャビネットや操作パネルのよごれは柔らかい布で軽く拭き取ってください。

- よごれがひどいときは、布を水でうすめた中性洗剤にひたし、よく絞って拭き取り、乾いた布で仕上げてください。
- ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。変色したり、塗装がはげるなどの原因となります。また、キャビネットに殺虫剤など、揮発性のものをかけないでください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書にしたがってください。

故障？　その前にちょっとこれを

修理を依頼される前に、もう一度次の項目をお確かめください。

故　障　？	原　因	処　置
テープもラジオも動作しない	● 電源プラグがはずれている ● 乾電池が消耗している ● 乾電池の極性が間違っている	● プラグを確実に差し込む ● 乾電池を交換する ● 乾電池を正しく入れる
音がでない	● **音量**つまみが下がっている ● ヘッドホンが差し込まれている	● **音量**つまみを調節する ● ヘッドホンをはずす
カセットレコーダー部		
カセットが入らない カセットホルダーが閉まらない	● カセットの向きが上下逆さまになっている ● **再生**（◀）ボタンが押されている	● テープの見えている方を上にして入れる ● **停止/取出し**（■ ▲）ボタンを押して解除する
テープが走行しない 再生（◀）ボタンを押しても鳴らない	● 乾電池が消耗している ● **一時停止**（❚❚）ボタンが押されている ● **ファンクション**スイッチが「マイク録音」または「ラジオ」になっている ● カセットテープの不良	● 乾電池を交換する ● **一時停止**（❚❚）ボタンを押して解除する ● **ファンクション**スイッチを「テープ」にする ● カセットテープをとりかえる
録音ボタンが押せない	● ツメの折れたカセットを装着している	● カセットテープをとりかえる ● 穴をセロハンテープなどでふさぐ
録音できない　ラジオから	● 選局がずれている	● 正しく選局する
録音できない　内蔵マイクから	● **ファンクション**スイッチが「テープ」または「ラジオ」になっている	● **ファンクション**スイッチを「マイク録音」にする
録音できない　デッキAから	● **ファンクション**スイッチが「マイク録音」または「ラジオ」になっている	● **ファンクション**スイッチを「テープ」にする
音がとぎれる、音程が狂う 消去が不完全	● ヘッド部が汚れている ● ハイポジションやメタルテープを使っている	● 清掃する ● ノーマルテープを使用する
ラジオ部		
ラジオが鳴らない	● **ファンクション**スイッチが「マイク録音」または「テープ」になっている	● **ファンクション**スイッチを「ラジオ」にする
雑音が多く聞きづらい	● 電波の受信状態が悪い ● 電源雑音の影響を受けている ● モーター、蛍光灯などの電気器具、テレビによる雑音の影響を受けている ● 選局がずれている	● 本機の設置場所を変える ● 電源コードを差し替える ● 本機を雑音源から離す ● テレビを消す ● アンテナを調節する ● 正しく選局する

お願い

長時間使用していますと、キャビネットの一部が多少熱くなることがありますが故障ではありません。

保証書とアフターサービス

保証書[裏表紙にあります]について

- この商品には保証書がついています。お買い上げの際、販売店が発行します。
- 所定事項の記入をご確認のうえ内容をよくお読みになって、大切に保管してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。
  なお、保証期間中でも有料修理になることがありますので、「無料修理規定」P27 をよくお読みください。

修理サービスについて

ご使用中に本機の調子が悪くなったときは「故障?　その前にちょっとこれを」P18 の一覧表に従って調べてください。なおらないときは、内部機構をさわらずに、お買い上げの販売店にご相談ください。

- 保証期間中の修理は
  保証書の規定に従い、お買い上げの販売店が修理させていただきます。製品に保証書を添えてご持参ください。
- 保証期間経過後の修理は
  修理により機能が維持できる場合は、お客さまのご要望により有料修理いたします。
- あらかじめご了承いただきたいこと
  「修理のとき一部代替部品を使わせていただくこと」や「修理が困難な場合には、修理せず同等品と交換させていただくこと」があります。

補修用性能部品の保有期間について

ラジオカセットレコーダーの補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後6年です。

- 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

アフターサービスをお申しつけいただくときは、次のことをお知らせください

① **品番:　U4-W33**
② **購入時期**
③ **症状:　できるだけ詳しく**

アフターサービスについてご不明の場合は

お買い上げの販売店か、お近くの「お客さまご相談窓口」P20〜23 にお問い合わせください。

- 転居される場合は
  ご転居によりお買い上げの販売店のアフターサービスが受けられなくなる場合には、事前に販売店にご相談ください。
- ご贈答の場合は
  最寄りの三洋販売店か、または当社の「お客さまご相談窓口」にお問い合わせください。

必ずお読みください

本機の使用中、本機やカセットテープの不具合による録音の失敗および録音内容(データ)の損失を防ぐために

1. 録音前には必ず試し録音をしてください。
2. 録音データを他の機器にバックアップしてください。

本機やカセットテープ使用中の不具合による録音内容(データ)損失や録音機会損失などの補償、また本機が使えなかったことによる付随的損害の補償については、その責任を負いかねますのでご容赦ください。
また、修理の際にデータ消去を伴う事故が発生した場合の補償についても、その責任を負いかねますのでご容赦ください。

お客さまご相談窓口

■ **まずはお買い上げの販売店へ…**

家電商品の修理のご依頼やご相談は、お買い上げの販売店へお申し出ください。
転居や贈答品でお困りの場合は、下記の相談窓口にお問い合わせください。

家電商品についての全般的なご相談 ＜三洋電機株式会社 お客さまセンター＞

受付時間：（365 日）9:00 ～ 18:30

総合相談窓口	050-3116-3434

※ 上記番号をご利用できない場合は**大阪(06)-6994-9570**におかけください。
※ 郵便またはFAXでご相談される場合
三洋電機株式会社 お客さまセンター 〒570-8677 大阪府守口市京阪本通2-5-5
FAX：大阪（06）-6994-9510

家電商品の修理サービスについてのご相談 ＜三洋電機サービス株式会社＞

受付時間：月曜日 ～ 金曜日 9:00 ～18:30
（7月 ～ 8月）8:45 ～19:30
土曜・日曜・祝日・当社休日 9:00 ～17:30

<table>
<tr><td rowspan="9">修理相談窓口</td><td rowspan="3">東コールセンター
（050-がご利用できない場合は、東京03-5302-3401へおかけください）</td><td>北海道地区</td><td colspan="2">050-3116-2333</td></tr>
<tr><td>東北地区</td><td colspan="2">050-3116-2444</td></tr>
<tr><td>関東・甲信越地区</td><td colspan="2">050-3116-2222</td></tr>
<tr><td rowspan="6">西コールセンター
（050-がご利用できない場合は、大阪06-4250-8400へおかけください）</td><td>近畿地区</td><td colspan="2">050-3116-2555</td></tr>
<tr><td rowspan="2">中部・北陸地区</td><td>北陸</td><td>050-3116-2555</td></tr>
<tr><td>中部</td><td>050-3116-2666
沼津地区は、
050-3116-2222</td></tr>
<tr><td rowspan="2">中国・四国地区</td><td>中国</td><td>050-3116-2777</td></tr>
<tr><td>四国</td><td>050-3116-2555</td></tr>
<tr><td>九州地区</td><td colspan="2">050-3116-2888</td></tr>
</table>

沖縄地区	098-944-5018

（※）沖縄地区の受付時間：月曜日～土曜日 9:00 ～17:30
（日曜、祝日及び当社休日を除く）

持込み修理および部品についてのご相談 ＜三洋電機サービス株式会社＞

受付時間：月曜日～土曜日 9:00 ～17:30（日曜、祝日、当社休日を除く）

家電商品の持込み修理および部品のご相談については、各地区拠点（サービスセンター、サービスステーション）で承っております。最寄の拠点は別記一覧もしくは弊社ホームページでご確認ください。

■ 上記のご相談窓口の名称、電話番号は変更することがありますのでご了承ください。

お客さまご相談窓口におけるお客さまの個人情報のお取扱いについて

お客さまご相談窓口でお受けした、お客さまのお名前、ご住所、お電話番号などの個人情報は適切に管理いたします。
また、お客さまの同意がない限り、業務委託の場合および法令に基づき必要と判断される場合を除き第三者への開示は行いません。なお、お客さまが当社にお電話でご相談、ご連絡いただいた場合には、お客さまのお申し出を正確に把握し、適切に対応するために、通話内容を録音させていただくことがあります。

< **利用目的**>

- お客さまご相談窓口でお受けした個人情報は、商品・サービスに関わるご相談・お問い合せおよび修理の対応のみを目的として用います。なお、この目的のために三洋電機株式会社および関係会社で上記個人情報を利用することがあります。

< **業務委託の場合**>

- 上記目的の範囲内で対応業務を委託する場合、委託先に対しては当社と同等の個人情報保護を行わせると共に、適切な管理・監督をいたします。

個人情報のお取り扱いについての詳細はホームページ http://www.sanyo.co.jp をご覧ください。

持込み修理および部品についてのご相談 **三洋電機サービス株式会社**

北 海 道 地 区

北海道	札幌サービスセンター	(011)831-9201	〒003-0013	札幌市白石区中央三条4-1-36
	旭川サービスステーション	(0166)22-2421	〒070-0073	旭川市曙北三条7-3-3
	函館サービスステーション	(0138)48-8301	〒041-0824	函館市西桔梗町589-295
	釧路サービスステーション	(0154)22-1576	〒085-0035	釧路市共栄大通3-1-6
	北見サービスステーション	(0157)23-4871	〒090-0037	北見市山下町4-7-14

東 北 地 区

青森県	青森サービスステーション	(017)729-3401	〒030-0141	青森市大字上野字山辺29-5
岩手県	盛岡サービスセンター	(019)623-1600	〒020-0824	盛岡市東安庭2-10-6
宮城県	仙台サービスセンター	(022)287-8351	〒984-0032	仙台市若林区荒井字丑ノ頭43-1
秋田県	秋田サービスステーション	(018)862-6551	〒011-0901	秋田市寺内イサノ93-1
山形県	山形サービスステーション	(023)641-1769	〒990-2331	山形市飯田西4-5-35
福島県	郡山サービスステーション	(024)945-6793	〒963-0107	郡山市安積3-120

関 東 ・ 甲 信 越 地 区

茨城県	水戸サービスステーション	(029)251-4125	〒311-4152	水戸市河和田3-2386-1
	つくばサービスステーション	(0298)64-4751	〒300-3261	つくば市花畑2-15-3
栃木県	宇都宮サービスステーション	(028)614-3883	〒321-0111	宇都宮市川田町字免ノ内765-5
群馬県	伊勢崎サービスステーション	(0270)40-7611	〒372-0003	伊勢崎市華蔵寺町87-1
	大泉サービスステーション	(0276)63-4401	〒370-0524	邑楽郡大泉町古海541-9
埼玉県	さいたまサービスセンター	(048)778-3095	〒362-0025	上尾市上尾下780-1
	坂戸サービスステーション	(049)284-8900	〒350-0214	坂戸市千代田5-3-17
千葉県	千葉サービスセンター	(043)208-3800	〒260-0842	千葉市中央区南町3-7-15
	鎌ヶ谷サービスステーション	(047)441-0111	〒273-0105	鎌ケ谷市鎌ケ谷7-6-59

お客さまご相談窓口

東京都	武蔵野サービスセンター	(042)364-7721	〒183-0033	府中市分梅町5-9-1
	城東サービスステーション	(03)5697-8160	〒120-0005	足立区綾瀬7-22-15 綾瀬7丁目ビル
	城北サービスステーション	(03)5914-3413	〒174-0051	板橋区小豆沢(アズサワ)1-23-10
	城西サービスステーション	(03)5347-0761	〒167-0032	杉並区天沼3-12-12 テック杉並
	相模原サービスステーション	(042)788-2760	〒194-0012	町田市金森851-3
神奈川県	横浜サービスセンター	(045)827-2831	〒244-0806	横浜市戸塚区上品濃9-14
	京浜サービスステーション	(044)740-3530	〒211-0041	川崎市中原区下小田中5-11-21
	平塚サービスステーション	(0463)55-3926	〒254-0014	平塚市四之宮3-20-60
新潟県	新潟サービスセンター	(025)285-2431	〒950-0942	新潟市中央区小張木2-16-43
	長岡サービスステーション	(0258)46-8065	〒940-2127	長岡市新産2-8-6
山梨県	甲府サービスステーション	(055)226-2561	〒400-0035	甲府市飯田4-8-23

中 部・北 陸 地 区

富山県	富山サービスステーション	(076)422-7020	〒939-8211	富山市二口町1-13-8
石川県	金沢サービスセンター	(076)292-2060	〒921-8005	金沢市間明町2-100
福井県	福井サービスステーション	(0776)53-7134	〒910-0834	福井市丸山1-1002
長野県	松本サービスステーション	(0263)40-3411	〒390-0852	松本市島立1064-1
岐阜県	岐阜サービスステーション	(058)246-3417	〒501-6006	岐阜県羽島郡岐南町伏屋1-35
静岡県	静岡サービスセンター	(054)236-0691	〒422-8034	静岡市駿河区高松2-26-10
	沼津サービスステーション	(055)935-0501	〒410-0822	沼津市下香貫七面1152-2
	浜松サービスステーション	(053)461-8685	〒430-0812	浜松市南区本郷町123
愛知県	名古屋サービスセンター	(052)485-3620	〒453-0816	名古屋市中村区京田町2-1
	岡崎サービスステーション	(0564)23-3418	〒444-0009	岡崎市小呂町字2-30
三重県	津サービスステーション	(059)236-5195	〒514-0111	津市一身田平野285-2

近 畿 地 区

滋賀県	滋賀サービスステーション	(077)514-2221	〒524-0021	守山市吉身4-1-24 南井産業第3ビルB棟
京都府	京都サービスセンター	(075)672-0877	〒601-8135	京都市南区上鳥羽石橋町8 NTTコミュニケーションズ京都南ビル
	福知山サービスステーション	(0773)24-3405	〒620-0062	福知山市和久市町290 和久市岩掘ビル2階
大阪府	大阪サービスセンター	(06)6992-6235	〒570-0086	守口市竹町4-13
	大阪南サービスステーション	(06)6761-4600	〒543-0001	大阪市天王寺区上本町5-1-14 三洋ビル2F
	大阪東サービスステーション	(072)965-1811	〒578-0903	東大阪市今米2-3-29
	阪和サービスステーション	(072)258-5001	〒591-8025	堺市北区長曽根町3068-5
兵庫県	神戸サービスセンター	(078)651-3951	〒652-0813	神戸市兵庫区兵庫町2-2-18
	阪神サービスステーション	(06)6432-3401	〒661-0026	尼崎市水堂町4-17-6
	姫路サービスステーション	(079)282-7892	〒670-0943	姫路市市之郷町1-9
	淡路サービスステーション	(0799)42-6015	〒656-0478	南あわじ市市福永536-1
奈良県	奈良サービスステーション	(0744)22-7888	〒634-0817	橿原市寺田町113-1
和歌山県	和歌山サービスステーション	(073)473-7112	〒640-8301	和歌山市岩橋1636-1

中国地区

鳥取県	鳥取サービスステーション	(0857)24-2930	〒680-0843	鳥取市南吉方3-107
島根県	松江サービスステーション	(0852)23-1183	〒690-0044	松江市浜乃木2-15-3
岡山県	岡山サービスセンター	(086)245-1634	〒700-0973	岡山市下中野703-101
広島県	広島サービスセンター	(082)279-0170	〒733-0833	広島市西区商工センター4-9-9
	福山サービスステーション	(084)954-4101	〒721-0952	福山市曙町4-22-10
山口県	山口サービスステーション	(083)973-3391	〒754-0024	山口市小郡若草町2-6

四国地区

徳島県	徳島サービスステーション	(088)699-4131	〒771-0219	徳島県板野郡松茂町 笹木野字八北開拓189-1
香川県	高松サービスセンター	(087)843-1840	〒761-0101	高松市春日町字片田1657-1
愛媛県	松山サービスステーション	(089)979-3486	〒799-2655	松山市馬木町2057
	四国中央サービスステーション	(0896)23-3416	〒799-0404	四国中央市三島宮川2-732-4
高知県	高知サービスステーション	(088)885-3411	〒781-8121	高知市葛島2-8-9

九州地区

福岡県	福岡サービスセンター	(092)441-2541	〒812-0016	福岡市博多区博多駅南4-6-23
	北九州サービスステーション	(093)521-5286	〒802-0004	北九州市小倉北区鍛冶町2-4-7
	久留米サービスステーション	(0942)37-3934	〒830-0038	久留米市西町105-18
長崎県	長崎サービスステーション	(095)813-3545	〒851-0101	長崎市古賀町1006-5
	佐世保サービスステーション	(0956)31-7635	〒857-1162	佐世保市卸本町17-1
熊本県	熊本サービスセンター	(096)388-3434	〒861-8045	熊本市小山3-2-11 熊本トラックターミナル内
大分県	大分サービスステーション	(097)543-3454	〒870-0829	大分市椎迫5-6
宮崎県	宮崎サービスステーション	(0985)29-3441	〒880-0022	宮崎市大橋3-224
鹿児島県	鹿児島サービスステーション	(099)251-4615	〒890-0068	鹿児島市東郡元町12-14

沖縄地区

沖縄県	沖縄三洋販売株式会社 サービス部	(098)944-5018	〒903-0103	沖縄県中頭郡西原町小那覇1303

(011208M)

☆ 住所・電話番号は、ご通知なしに変更することがありますので、ご了承ください。

参考

仕様

テープレコーダー部

トラック方式	4トラック、2 チャンネル　ステレオ
録音方式	交流バイアス(デッキB)
消去方式	マグネット消去(デッキB)
早送り・巻戻し時間	約150 秒 (C-60)
周波数範囲	80～12,000Hz

ラジオ部

受信周波数	AM:526.5～1,606.5kHz FM:76～90MHz / TV:1～3ch

共通部

出力	1W + 1W(JEITA/DC)
スピーカー	9cm 円型 × 2
マイクロホン	内蔵マイクロホン
出力端子	ヘッドホン端子(ステレオミニジャック) 32Ω 3.5φミニ×1
電源	AC 100V、50/60Hz DC 9V　単1形乾電池×6本
消費電力	10W (待機消費電力 約1.3W)
電池持続時間	[三洋アルカリ乾電池 LR20D×6本使用時] 約35時間(JEITA・テープ再生時) 約37時間(JEITA・FM録音時)
外形寸法	約500(幅)×142(高さ)×120(奥行)mm (つまみ等の突起物含む。ハンドル含まず。)
質量	約2kg(乾電池含まず)
付属品	電源コード(コード長:約1.8m)

仕様および外観は改良のため予告なく変更する場合があります。

- 地上アナログテレビ放送は2011年7月までに終了することが、国の法令として決定されています。地上アナログテレビ放送終了後は、テレビの音声を聴くことはできません。

無料修理規定

お買い上げの日から保証期間中に、取扱説明書、本体ラベルその他の注意書きに従った正常な使用状態で故障した場合には、本書記載内容にもとづき、お買い上げの販売店が無料修理いたしますので、商品と本書をご持参ご提示ください。

1. 保証期間内でも次のような場合には有料修理となります。
   - イ. 使用上の誤り、または改造や不当な修理による故障または損傷。
   - ロ. お買い上げ後の取付場所の移動、落下、引っ越し、輸送等による故障または損傷。
   - ハ. 火災・地震・水害・落雷・その他の天災地変ならびに公害や異常電圧その他の外部要因による故障または損傷。
   - ニ. 業務用としての使用、車両・船舶への搭載など一般家庭用以外に使用された場合の故障または損傷。
   - ホ. 本書の提示がない場合。
   - ヘ. 本書にお買い上げ年月日、お客さま名、販売店名の記入がない場合、あるいは字句を書き換えられた場合。
   - ト. 消耗品の交換・仕様変更など。
2. 保証期間内でも商品を修理窓口へ送付された場合の送料や出張修理をおこなった場合の出張料はお客さまの負担となります。
3. ご転居の場合は事前にお買い上げの販売店にご相談ください。
4. ご贈答品等で本書に記入の販売店に修理をご依頼になれない場合には、「お客さまご相談窓口」をご覧のうえ、もよりの窓口にお問い合わせください。
5. 本書は日本国内においてのみ有効です。 Effective only in Japan
6. 本書は再発行いたしませんので紛失しないよう大切に保管してください。

修理メモ

この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。 従ってこの保証書によって保証書を発行している者（保証責任者）、及びそれ以外の事業者に対するお客さまの法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについてご不明な場合は、お買い上げの販売店または「お客さまご相談窓口」にお問い合わせください。

- 保証期間経過後の修理または補修用性能部品の保有期間について詳しくは「保証書とアフターサービス」P19 をご覧ください。

総合相談窓口

家電製品についての全般的なご相談は、下記の「総合相談窓口」へお問い合わせください。

相談受付時間
(365日) 9:00～18:30
総合相談窓口
050-3116-3434

※ 上記番号をご利用できない場合は、
大阪(06)6994-9570におかけください。

修理や部品に関するご相談は、お買い上げ販売店、または20～23ページのお客さま修理相談窓口にお問い合わせください。

愛情点検	長年ご使用の機器の点検を !	
	このような症状はありませんか?	● 電源コードやプラグが異常に熱い ● コゲくさい臭いがする ● 電源コードに深いキズや変形がある ● その他の異常や故障がある

ご使用中止

故障や事故防止のため、電源を切り、電源コードをコンセントから抜いて、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は、販売店にご相談ください。

89030W33JP00L
(JP0)

三洋電機株式会社
三洋電機コンシューマエレクトロニクス株式会社
家電事業部
〒574-8534 大阪府大東市三洋町1番1号